

2 2学年の実践

(1) はじめに

2年生の児童数は、男子9名、女子11名、計20名である。

2年生は、算数好きな子が多く、中でも「数と計算」の加減の計算は全児童が好きである。しかし、文章問題となると苦手意識をもっている児童が50%近くいる。この原因の多くは、問題文の語句の意味を正しく理解しないまま取り組み、答えを間違ふことにあるようだ。学習の基礎基本を定着させ、既習知識を活用できるような手立てをしてやれば、文章問題にも挑戦する意欲を持ち取り組むようになると思われる。

そこで、一人一人の児童が、分からないことが分からないと言える学級の雰囲気や、児童同士が話し合える信頼関係を築き、教科書の問題文を扱う際に、意味の分からない語句を質問させ、文意を理解してから課題に取り組むようにさせた。単元のまとめをした後2時間は副教材アイテムを活用する。その際にも同様な取り組みをした。

低学年において、「豊かな発想」や「考える力」を育成するために、まず、一人一人の児童が考えていることを出し合い、お互いを認め合える学級経営に努めた。さらに、学習の基礎基本を定着させ、課題に挑戦する意欲をもち取り組めるように、授業の展開を工夫し、適切な支援を行うことに努めた。

(2) 授業の実践例

授業の視点

授業の導入で、児童が、問題文の語句を理解し学習課題の内容をつかめるようにすれば、児童自ら既習知識を活用し、発展的な問題を解決することができるであろう。

① 単元名 長さのたんい

② 本時の学習

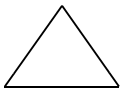

(ア) ねらい

単元「長さのたんい」で学習した基本的な知識や技能を活用して、発展的な問題を解決することができる。

(イ) 評価の観点

- ・発展的な問題を解くために問題文の語句を理解しようとする。〈知識・理解〉
- ・既習の学習内容を活用し問題を解決しようとする。〈数学的思考力〉

(ウ) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点・支援	評価項目	
1 学習課題を知る。(全)		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>下の2つの形のまわりの長さをくらべます。</p> <p>①まわりの長さをはかってもとめましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> </div> <p>②まわりの長さが長いのはどちらでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">()</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読ませ、理解できない言葉は質問させる。 *「まわり」の言葉は教科書単元の中では出てこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解くために問題文の語句を理解しようとする。(理解)

<ul style="list-style-type: none"> ・読んで分からないことは質問する。 ・「まわりの長さ」の意味を図を通して知る。 ・長さを測るときの注意事項を確認する。 	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことでも質問には答える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>----- 注意事項（既習事項・基礎基本） -----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものさしの端を測る物の端にそろえること ・目盛りのある方が上になるようにする。 ・目盛りを読む前にもものさしの端がそろっているかも一度確かめる。 ・大きい目盛りから読む。 ・5・10の印をつかう。 </div>	
<p>2 学習課題①②をする（個）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からないことは質問をする。 ・三角形ができたなら挙手をする。 ・長方形ができたなら挙手をする。 	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視をし、つまづいている子の指導をする。 ・できた子の確認をする。 <p>*教科書単元の中では「4 cm 2 mm + 4 cm 2 mm」は出てこない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速くできた子には豆先生をさせる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習内容を生かし問題を解決しようとしている。（思考）
<p>3 できた子は「長さの計算」に進む。（個）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からないことは質問をする。 		<p>*教科書の単元の中では「7 mm + 8 mm」は出てこない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できた子同士で答え合わせをさせる。 ・教師は最終確認をする。 	

(3) まとめ

児童自身が、どの語句が分からないのかが分かり、自ら質問し解決をする事ができるようになり、発展的な問題に意欲的に取り組むようになった。

児童同士が答え合わせをしている様子や教え合いの様子を観察すると、答えが出るまでの道筋を説明できるようになってきている。

12月現在、個人差はあるが、副教材のアイテムに取り組む意欲は高い。下位の児童も進んで休み時間に取り組んでいた。これは、かけ算九九の単元なので、基礎・基本が定着し、副教材アイテムには個人で容易に取り組めたのではないと思われる。

副教材アイテムの「考える力をつけよう」「ちょうせんしよう」の内容は、変化に富んでいるため、児童は「楽しい」「おもしろい」と言う。



(4) 今後の課題

学力差があるので、全員同じ歩調で進めることは困難である。

「考える力をつけよう」「ちょうせんしよう」は、できる限り児童の考えを発表し合う時間を設定したい。

教師が教材研究をし、授業で一斉に扱う内容と個人でも進められる内容を区別して扱いたい。